

# 日本セラミックス協会理工系人材育成活動助成金 活動報告書

## “科学の祭典” 第20回テクノファンタジー “Science festival” 20<sup>th</sup> Techno fantasy

(崇城大学、旧 熊本工業大学) 友重竜一  
(SOJO University) Ryuichi Tomoshige

実施日	令和元年9月29日(日)	Date	September 29, 2019
実施場所	崇城大学池田キャンパス	Place	Ikeda Campus, Sojo University
住所	熊本県・熊本市	Address	Kumamoto-shi, Kumamoto
主催	崇城大学	Organizer	Sojo University

“科学の祭典”テクノファンタジーは、崇城大学の大学教員や学生スタッフが、科学の不思議や面白さをわかりやすく伝える体験型イベントとして年一回企画・開催され続け、今回で20回目を迎えます(途中、熊本地震のため3年間休止)。本企画は、小さなお子様からご高齢の方まで幅広い世代を対象としています(参加費は無料)。本申請には、七宝焼きの制作体験と、佐賀・有田の著名な陶芸家で、申請者の研究室を卒業した庄村久喜氏の作品の展示が含まれます。庄村氏により独自に考案され、従来にない技法で作られた陶芸作品を通して、その美しさおよび奥深さを来訪者に間近で見てもらい、後にセラミックス関連の研究や職業に就く人材の卵を生み出すことを目的として実施しました。また、七宝焼きの制作体験では、楽しみながらセラミックス製品をつくる工程を理解してもらえよう工夫して実施しました。

当日は小雨交じりの天候で、かつ熊本市中心部での大規模なイベント開催と重なっていたにもかかわらず、崇城大学への全来場者数は1903名、申請者らが主催した本行事に関しては310名にご来場いただいた。出展会場では8名の学生と教員2名で対応に当たりましたが、ひっきりなしに親子連れや小・中校生が訪れ、終日賑わいました(開催時間は10:00~15:00)(図1)。七宝焼き体験では、予め加工しておいた円形の銅板上に、来場者が七宝釉薬で思い思いのデザインを描きます。制作終了後は学生らがそれらを預かり、電気炉を用いて900℃で数分間焼成処理を行い、釉薬を銅板に焼き付けることで完成させます。来場



図1 申請者らが主催した出展会場入り口の様子  
Fig.1 A situation of the exhibition hall entrance



図2 子供達に七宝焼きの作り方を指導している学生諸君  
Fig.2 Students who are teaching children how to make cloisonné.

# 日本セラミックス協会理工系人材育成活動助成金 活動報告書

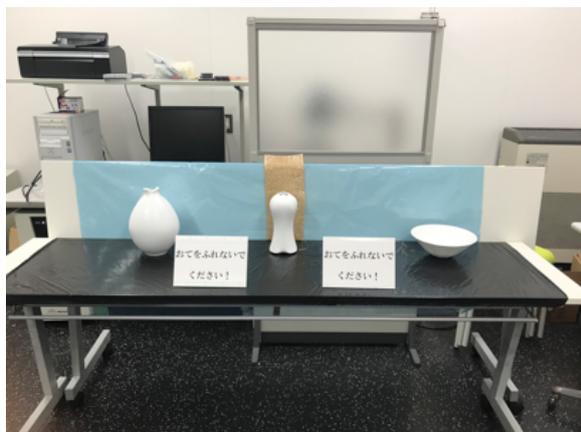


図3 (a) 庄村氏による「白妙磁」作品3点  
Fig.3 (a) Display of “SHIRO-TAE-JI” works  
created by Mr. Shomura.



図4 庄村氏の作陶工程を示すパネルに見  
入る来場者親子。  
Fig.4 Visitors and their children who are looking  
at panels showing pottery production process  
described by Mr. Shomura.

者には多くの幼児もいましたが、白衣を着た学生の手ほどき受けながら、また、親御さんのサポートを得て、七宝焼き制作に挑戦していました(図2)。焼き上がり後、常温に戻るまで20分ほど待っていただき、来場者にお渡ししました。来場者には、七宝焼きの背面に磁石を接着してオリジナルのマグネットにしたり、安全ピンを取り付けることでバッジにしたりできることを伝え、記念の品として持ち帰っていただいた。

一方、有田焼の陶芸家・庄村久喜氏の三作品(図3)をお借りして、七宝焼き会場の隣の部屋で展示しました。庄村氏は、本学卒業後、佐賀県立有田窯業大学校で学ばれ、現在はお父様と共に佐賀県有田市の晩香窯庄健にて作陶に励んでおられます。三作品は、庄村氏が開発した「白妙磁(しろたえじ)」というオリジナルの技法によるもので、これは「白」の世界を追求するなかで、繊細な白磁の上に絹のような光沢感を含ませるところが特徴です。その品格を備えた造形と陰影が新鮮であると、各方面から高い評価を受けられ、第58回日本伝統工芸展日本工芸会奨励賞を受賞されておられます。これらの素晴らしい作品を前に、来場者はもとより、主催した私共もしばし目を奪われていました。

来場者には、七宝焼きの製作および美しい陶磁器に見て・触れてもらいましたが、これをきっかけにセラミック素材の特徴、製品の美しさ、およびセラミックスが身近な存在であることを認識してもらえたものと思っています。また、小さな子供達には、将来、そのようなセラミック素材で新しい製品や美しい作品作りに携わりたいという気持ちを芽生えさせることができたと思っております。

【謝辞】日本セラミックス協会 教育委員会様には、今回の運営において、多大なるご協力を賜りました。本書面を借りて御礼申し上げます。なお、イベントのパンフレットおよびポスターには、同委員会様からの協力を得て本事業が行われた旨を表記いたしました(図5)。



図5 テクノファンタジーのパンフレットの表紙  
Fig.5 A brochure cover of Techno Fantasy.